

単位数	3	学科（型） 学年	建設工学科（建築型） 3年	教科書 副教材等	自作教材
学習目標		実習を通して、建設に関する専門的な知識・技術を身に付ける。また、主体的に行動する態度、集団や社会での自分の役割や行動について考え、安全で適切な判断ができるようになる。			
学期	学習内容			学習のねらい	
1	〈木工実習〉 折りたたみ椅子の製作 ・墨付け ・切断・加工 ・組立 ・仕上げ			○材料に正確な墨付けができるようになる。大工道具の使い方について学習し、実践的な技能を身に付ける。	
2	〈CAD実習〉 大梁配筋リストの作成 ・WordとExcelの基本操作 ・文書作成 ・表作成 ・Jw_cadとExcelを使った大梁配筋リストの作成 〈施工実習〉 ・縄張り・遣方 ・根切り・地業			○WordとExcelの基本操作を身に付ける。Jw_cadは、ショートカットキー・クロックメニューによる作図ができるようになる。 ○ExcelデータをJw_cadに貼り付け、資料を作成できるようになる。 ○縄張り、遣方について学習し、その施工方法を身に付ける。 ○根切り、地業について学習し、その施工方法を身に付ける。	
3	・配筋・型枠・コンクリート			○基礎工事に関する知識・技術を身に付け、主体的に作業に取り組むことができる。	
評価の観点		内 容			
知識・技術		・実習の目的・内容を理解し、計画性を持って行動することができる。また、身に付けた知識・技術を活用し、的確・安全に作業できる。 ・専門的な知識・技術を身に付け、実社会で主体的に行動する態度を身に付けることができる。			
思考・判断・表現		・建設に関する知識・技術を習得するために思考を深め、諸問題に対して理論的に判断する能力を身に付け、活用できるようになる。			
主体的に学習に取り組む態度		・建設に関心を持ち、知識・技術の習得に向けて、意欲的に取り組むことができる。			
評価方法	・実習における操作・作業状況や理解度の評価を行う。 ・作品やレポートの評価を行う。 ・学習に対する意欲や取り組み態度の評価を行う。				
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項					
○ 実習は危険な作業を伴うこともあるので、工具の使用や服装、態度等に注意すること。 ○ 加工方法や操作方法をよく理解し、技術を身に付けること。 ○ 準備から後片付けまで、積極的に取り組むこと。					